

若手育成セミナーに参加しよう！

新潟大学大学院医歯学総合研究科博士課程

脳研究所細胞神経生物 崎村研究室 渡辺和泉

若手は視野を広げるために、学会発表や他の研究室との交流など、自分を外の世界とつなげる機会を積極的に利用すべきです。ポスドクや大学院生の時は研究人生を自分で切り拓かなければならないと考えています。私は、修士の頃から博士課程卒業後の仕事内容について悩むようになり、自分が何に興味があるのか、どのような実験方法をこれから習得すべきなのか考えるようになりました。そこで他大学の先生方とのディスカッションが含まれる神経化学会の若手育成セミナーに参加することにしました。私は今年を含め修士二年から三回若手育成セミナーに参加してきました。

今回私は、自分の専門とは異なる領域の現状を知りたいと思い、グループCの慶應義塾大学医学部の田中謙二先生の「オプトジェネティクス入門」と同じく慶応大学医学部の久保健一郎先生の「大脳新皮質と海馬の構造・発生」の講演を含むグループに参加しました。講師の先生は学生向けに話をするので難しい講演内容もわかりやすく聞け、オプトジェネティクス技術の発展に驚き、自分の実験の可能性を広げる参考になりました。また脳の構造に関しては勉強不足だと痛感しました。講演後は、科研費、留学、人生設計について幅広く話が聞けました。また前回の若手育成セミナーでお世話になった橋本亮太先生には、今年も研究と家庭についてお話することが出来ました(写真参照)。若手育成セミナーは、第一線で活躍されている先生たちから、自分が聞きたいことについて意見をとことん聞くことができる絶好の場だと思います。私も含め、若手は将来に対して不安であり、悩んでいます。しかし残念ながら、同じ研究室の先輩には聞きにくいことや、なかなか相談相手がいないことがあると思います。特に、我々女性研究者はまだ周りに少なく、将来について同性の意見を聞く機会は少ないと感じていました。若手育

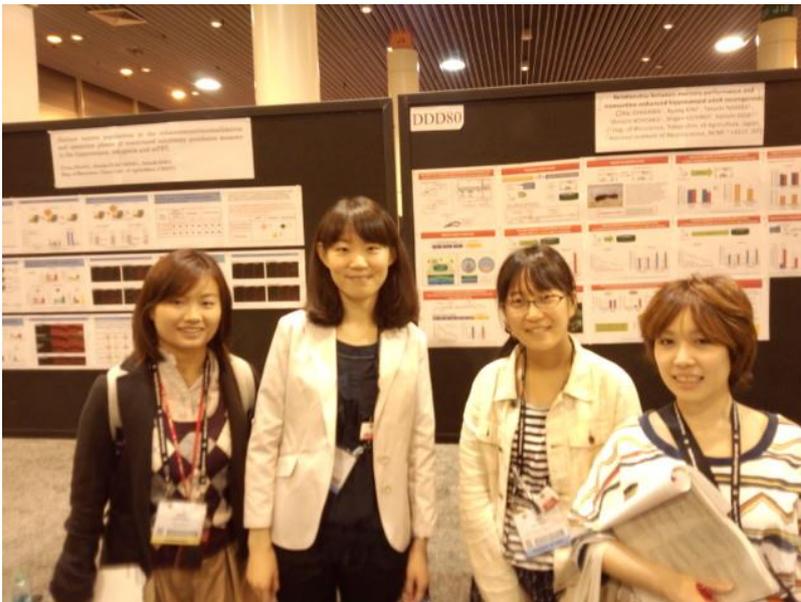
成セミナーは様々な講師の先生が毎年担当して下さるので、将来の計画をたてるために参考になる話が聞けます。

また若手育成セミナーの良い所はなんといっても、若手同士の知り合いが増えることです。初めて若手育成セミナーに参加した時から出会った人とは、その後の学会などで会った際にお互い近況報告をしています。実際、今回の若手育成セミナーで過去のセミナーで出会った数人と再会し話しました。また偶然にも、今回同じグループだった東京農業大学の石川理絵さんと過去に同じグループだった群馬大学の六本木麗子さんが知り合いということがわかり、私は彼女達と 10 月ニューオリンズで開催された Neuroscience 2012 (Society for Neuroscience)で共に発表し交流を深めることが出来ました(写真参照)。若手育成セミナーで得た研究仲間の輪は着実に広がっていると実感しているところです。またセミナーを通して出会った先輩からは、就職について、留学先探しや外国での生活などを教えてもらえます。セミナーでは新しく出会う人と久しぶりに会う人の両者から良い刺激が得られ、いずれの方も日々頑張り研究人生を歩んでいるので勉強になることが多いです。

三回の若手育成セミナー参加を通して、人との出会いや伺ったお話は、それぞれが有意義なものになっています。同年代の研究者を目指す仲間からの刺激は今後の研究生活の励みになっています。将来に悩む若手の時こそ視野を広げ、立ち止まって考えることも重要なのではないのでしょうか。私は現在、新潟大学脳研究所で実験とマウスのお世話と論文作成と、未熟ながらも日々奮闘しています。最近では脳研究所全体と医学部解剖教室の二つのジャーナルクラブに参加し始め、新潟大学内の研究者の交流をもちつつ、自分に不足している知識を吸収しています。これも若手育成セミナーに参加し積極的に行動する大切さを学んだからだと思います。今後も身近なところからより良い研究環境を構築し、外部にも視野を広げ、研究者として成長したいと考えています。



若手育成セミナー・夜のフリーディスカッション
夜景のきれいなお部屋で美味しいお酒が飲めました
左から、大会長である池田一裕先生、本人、橋本亮太先生



2012年10月ニューオリンズ Neuroscience 2012
発表後は、カキをたくさん食べました
左から、群馬大の六本木さん、東農大の張さん、石川さん、本人